

令和2年10月14日

# 校長室だより

第7号

座間市立相模中学校  
校長 金子 憲勝



## 実りの秋～米作りを通して、学んだこと～

私は、9年前から休みの日には田へ行き、米作り等を行っています。なぜ、米を作るようになったかという、私の父が我が家で食べる分ぐらいの米を昔から作っていたからです。父は、会社員だったので農業が専門だったわけではありませんが、長年米を作っていました。父は、生前米作りを是非引き継いで欲しいと私に何度も言っていたので、父が亡くなった後は私が米作りを行うことにしたのですが、慣れない田仕事なので最初は色々失敗しました。

実際に自分で米を作り始めると分からないことが多くあり、父からもっと聞いておけば良かったと思った時には父はおらず、そのため近所で米を作っている人たちから様々なことを学びました。その学んだ中の一つに、「目肥し(めこやし)」という言葉があります。

私に教えてくださった方いわく、『目肥しとは、田に時々足を運び稲の成長の様子を観察することが大変重要で、人が見て回ることが稲にとっては肥やしになる。』という意味だと教えてくれました。また、その方は私に、『田植えを終えた後、定期的に稲の様子を見に行かないと、稲の生長具合が分からずに、虫が付いたり、水が足りなくなったりして、稲が育たなくなる。そのため、定期的に稲を見に行くことが重要で、稲の生長には欠かすことのできない肥やしのようなものなので、私たちは目肥しと言っているのだよ。』と噛み砕いて説明してくださいました。



この説明を聞き、私は「子育てと一緒にだ！！」と思いました。子どもを育てる上でも、子どもの様子をよく観察することが大切です。子どもの様子を見ずに、子どもに任せたままですくすくと成長することはありません。大人たちが、子どもの様子をよく見て、必要に応じて声をかけ支援することにより、子どもは成長できるのです。米作りの中から学んだことは、子育て上でも大変大切なことですので、本校の教職員にはこの「目肥し」について話をしました。今後も、生徒たちの様子を多くの目で見て情報を共有し、保護者の皆様と連携して生徒の健全育成に努める所存です。

その他、我が家から持ってきた苗を使って、6月に相模級の生徒たちとバケツに田植えをしました。その稲が育ち、穂を付けたので先日生徒たちと稲刈りをし、天日干しをしています。この後、脱穀をする予定でいます。

## 校舎に歌声が響くことの幸せ

10月に入り、飛沫対策のために例年より間隔をあけて生徒たちは合唱練習を行っています。校舎に歌声が響く日が多くなり、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で合唱練習をすることができない日が続いていたので、校舎に歌声が響くことの幸せを感じています。来週の月曜日(19日)から金曜日(23日)までの5日間は、兄弟学級ごとの合唱交歓会の様子を保護者の皆様に見ていただけるようにしましたので、ご都合のつく方は是非ご来校ください。また、コミコミスクールとして、今年度は保護者の皆様のみ、廊下から授業の様子を見ていただくようにしましたので、23日と26日の3・4時間目のご来校をお待ちしております。



## 本の貸し出し冊数について

秋は、「食欲の秋」「スポーツの秋」「芸術の秋」「読書の秋」など色々な表現がありますが、今回の校長室だよりの最後は、「読書の秋」で閉めたいと思います。ここ数年本校の学校図書館の貸し出し冊数が、他校と比較すると大変多いことを教育委員会の担当者から先日聞きました。自校の結果は分かっても、他校の結果は分からないので、この担当者からの言葉を聞き、とても嬉しい気持ちになりました。読書の効果については、様々な場面で言われていますので、生徒たちにはこれからも是非多くの本を読み、視野を広げて欲しいと思います。